

第3回日露投資フォーラム
高市早苗経済産業副大臣ごあいさつ案(同時通訳)

ズドラースト ヴィーチェ(露語で「こんにちは」の意)

ただいまご紹介にあずかりました日本国経済産業副大臣の高市早苗でございます。

第3回日露投資フォーラムの開会にあたり、日本側主催者を代表して一言ごあいさつを申し上げます。

まず始めに、今回のフォーラムのホスト国として開催準備にあられた 経済発展省、マトビエンコ・サクトペテルブルグ市知事を始めとするロシア側主催者の皆様のご尽力に、深い敬意の念を表します。

本フォーラムは、第1回が2006年9月に、ここサクトペテルブルグで、第2回が昨年2月に東京で開催され、それぞれ日露両国の政府機関、関係団体、経済界等からハイレベルな方々を含む多数の関係者が参加し、両国間のビジネスの活性化に貢献してまいりました。

今般、第3回日露投資フォーラムを再びサクトペテルブルグで開催し、これまでと同様に多数の方々の参加を得ることができましたことは、日露双方において、両国間のビジネスの拡大や貿易投資環境の更なる整備に対する期待が、一段と高まっていることの証であると考えます。

さて、日露の経済関係につきましては、従来から大きく飛躍する可能性があると言われておりました。

日露間の貿易額は、2002年から2007年までの5年間で約5倍に増加し、このような期待は、まさに現実のものとなってきております。

この勢いは依然として続いており、本年上半期の両国間の貿易額は約1兆5千億円となり、前年同期に比べ約37パーセント伸びております。

また、日本の主要な自動車企業がサンクトペテルブルグを始めとするロシアの工業地域に相次いで進出するなど、日本企業による投資も本格化しつつあります。

しかしながら、日本とロシアの貿易額は、日中間や日米間の貿易額に比べれば、なお10分の1程度に過ぎません。また、昨年における日本からロシアへの対外直接投資額は117億円であり、日本からインドへの投資額の約15分の1、ブラジルへの投資額の約12分の1にとどまっております。

両国の経済規模を考えれば、両国間にはまだまだ新しいビジネスチャンスがあるはずです。

一つには、これまで日露間においてビジネスが低調であった分野の業種についても、目を向けることが必要です。

最近において、金融や食品の分野で連携が進みつつありますが、この他にもたとえば小売業や化学・医薬品の分野についても、可能性があると思います。

また、地理的にも、広がりが考えられます。

現在のところ、日本企業の進出はモスクワとサンクトペテルブルグを中心とするものでしたが、ロシアには、この二大都市の他にも人口が百万人を超える都市が11もあり、工業都市も多数存在するなど、日本からの投資先としては様々な場所が考えられます。

特に、極東・東シベリア地域につきましては、昨年6月に当時の安倍首相からプーチン大統領に対し、両国間において互恵的な政府間及び民間協力の推進の検討が提案されたところであり、ロシア政府においても昨年8月に同地域に対する発展プログラムを作成し、開発に取り組んでおられると伺っているところであります。

日本から地理的に近い地域でもありますので、日本企業のみなさまには更に注目いただきたいと考えております。

このように、日露間におけるビジネスチャンスをしっかりとかんでいくためには、視界をこれまで以上に広げ、新たな可能性について目を向けていく必要があるでしょう。

一方、ロシア政府には、透明性のある、世界に向かって開かれた経済体制の構築を更に一層推進していくことを期待しております。

こうした努力は、ロシアの貿易投資環境の改善へと結びついていくものであり、外国企業の目を今以上にロシアに向けさせることになるはずです。

ロシアの貿易投資環境の改善につきましては、以前から、ロシア政府に対し、許認可手続き、通関手続き等の行政手続きの簡素化・透明化・迅速化を要望してまいりました。

ロシア政府の取組みにより、改善が進んだ面もあると承知していますが、今後更に取組みを進めていただく必要があると考えています。

特に、許認可の数が多いうえに、許認可を得るために膨大な量の書類の提出が必要となることは、日本企業がロシアに進出するうえで、大きな壁となっております。

また、企業活動に関連する法令について、改正が頻繁に行われるほか、担当者によって解釈が異なることがあることも、企業にとって負担となっております。

企業が事業を継続していくうえで、関連法令の内容と運用が安定していることは不可欠な要素です。これらの点について、改善が進むことを期待しております。

なお、本年5月に施行された戦略的産業外資規制法については、企業にとって透明性のある、適正な運用が行われることを期待しております。

また、投資環境の整備としては、港湾、鉄道、道路等の運輸インフラの整備も非常に重要であると思います。

特に、シベリア鉄道については、アジアとヨーロッパを結ぶ大動脈となりうる輸送路であり、その近代化を進めることは、日露双方にとって、極めて大きな意義を有しています。

シベリア鉄道を活用した物流ルートの確保については、昨年6月に当時の安倍首相からプーチン大統領に対し、政府間及び民間協力の推進を両国で検討していくことを提案し、プーチン大統領の賛同を得ております。

現在、経済産業省では、シベリア鉄道の近代化についての協力を中心に、沿線地域における開発や産業育成に関する協力を日露間で推進する「ユーラシア産業投資ブリッジ構想」について、ロシア側と話し合っております。

本フォーラムでは、代表者によるプレゼンテーションが行われるほか、参加者による意見交換の機会が設けられております。

私が申しあげました点を含め、日露経済関係の発展に向けた取組みについて参加者の間で活発な情報交換・意見交換が行われ、具体的な成果へと結びついていくことを強く期待しております。

最後に、本フォーラムの成功と、日露間の協力の更なる発展、及び皆様の御健勝を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

ブラガダリャ ザ ブニマニエ (露語で「ご静聴ありがとうございました」の意)